

実践活動報告書

小平市国際交流協会（KIFA） 原聡子

実践プログラム：外国から来た親子のための日本語プレスクール

2月5・12・19・26日(土)13:30~15:00

I プログラム実践の理由

①外国ルーツの子どもたちに、なるべく早い段階から日本語支援を行うため。

小平市に居住する外国人は約5000人。家族で住んでいる人もいるので、当然その一部は幼い子どもである。また、日本国籍であっても、母親が外国人であったり、親の事情で外国で生まれ、その後日本に住むようになったという子どももいる。日本語が第一言語ではない子どもが市内に一定数いることが考えられる。

子どもは日常会話を習得するスピードは速く、来日後短期間で話せるようになる。しかし、小学校に入学して学習を始めると、日本語で話す家庭で育った子と同じように授業について行くことができないことが多い。会話ができるからといって教科学習に必要な日本語能力の習得できているわけではない。子どもへのサポートは長い期間が必要で、できるだけ早い段階で始めるのが望ましい。

KIFAでは子どもの日本語支援として、子ども日本語学習支援教室を行っている。20人ほどの小学生、中学生の子どもが勉強をしに来ているが、早い段階からの支援の必要を感じてきた。少しでも多くの就学前の外国ルーツの子どもとその保護者にこのプログラムに参加してもらい、KIFAで学習のサポートが受けられることを知ってもらいたい。

②子供や保護者に日本の学校の習慣やルールを理解してもらうため。

日本の小学校の独特の習慣（連絡帳、宿題、持ち物、給食等）について、予備知識を持ってもらい、親子でスムーズに学校生活を始めてもらいたい。知らないために、戸惑ったり、学校側とうまくコミュニケーションが取れなかったりする場合もある。子どもの保護者が日本語ができない場合は特にその心配が大きい。

また、今後保護者が子どもや自身の日本語や日本での生活について相談したくなったときにKIFAが何らかの役に立てることを知ってもらおう。

II プログラムの概要 〈90分×4回のプログラム〉

①授業：小学校生活の体験（60分間）

オリジナルの連絡帳兼ワークブックを使い、小学校の雰囲気を感じられる授業を行う。歌や手遊び、読み聞かせなどを交えながら、ひらがな・数字の読み方と書き方、小学校で使われる語彙・表現、学校生活の流れなどを学ぶ。

②保護者と指導者との懇談会（30分間）

毎回テーマを決めてスタッフから話をする(連絡帳や宿題について・持ち物や学校のスケジュールについて・多言語多読ツールの紹介等)ほか、保護者からの質問を受けたり相談に乗ったりする。

Ⅲプログラム実践を通して考えたこと、行ったこと

ー地域日本語教育コーディネーターとして目指したことー

①多文化共生のために何ができるか

地域における多文化共生を推進しなければならないと言われているが、小平市では直近5年間に具体的な施策はない。親の都合で日本に住むことになった外国ルーツの子どもが将来にわたって市民として共生していくためには、日本語に関する手厚い支援が不可欠である。現状は各自の努力に任されている部分が多い。子どもへの支援を最重要課題と考え、今行っている支援に加えて、すぐできることとしてプレスクールを考えた。

②KIFA ボランティア同士の連携と協働

KIFA ボランティアのうち日本語会話教室と子ども日本語学習支援教室の指導者からスタッフを募り、一緒にプログラムを作っていた。また、Tasskの講師のアドバイスにより外国人のボランティアにも参加してもらった。子育て経験のある日本語教室の元・現学習者数名がミーティングに参加して意見やアドバイスを述べ、広報やプログラム内容に反映された。当日もサポート指導者として参加した。KIFAの日本語教室では多くのボランティアが活動しているが、ボランティア同士や外国人学習者・指導者間でプログラムの内容ややり方について話し合うということはなかった。企画の段階から外国人も含めたボランティア同士が意見を出し合いながら活動するという経験ができた。

③地域における連携

プレスクールプログラムについて知ってほしい相手は就学前の子どもの外国人保護者であるが、市報や公共施設での掲示だけではなかなか周知できないと思われ、市内の幼稚園や保育園の先生方に配布できないか考えた。KIFA事務局の手配で、市保育課に依頼し1月に保育園と幼稚園の園長会でプレスクールについての説明とチラシの配布をさせてもらった。また、市の民生委員の会合でも同様にさせてもらった。これがプレスクール参加のきっかけとなった子どもはいないが、まだ認知度の低いKIFAの存在と、外国ルーツの子どもへの日本語支援の必要性を、地域の人に知ってもらう一歩になったのではないかと考える。

④今後の課題ー情報の共有

今回最も難しかったことは、伝えたい人に情報を伝えるということだった。チラシを見て問い合わせしてきた人の中に、どんなイベントかイメージできなかったと思われるケースが多かった。幼稚園・保育園の先生に伝えるのも、やはり一度説明してチラシを配るだけではなかなか分かってもらうのは難しい。繰返し情報発信することが必要だろう。情報発信が課題共有につながる一つの方法かもしれない。行政との連携も現状は十分ではないが、KIFAの情報を繰返し伝え共有することでより強くなるのではないかと考える。